

二瓶喜博教授の退職記念号の刊行にあたって

経営学部長 原 仁 司

二瓶喜博先生は、平成 25 (2013) 年 3 月 31 日をもって、亜細亜大学経営学部をご定年により退職されます。経営学部は、先生のご退職を記念して『経営論集』第 48 巻第 2 号を定年退職記念号として刊行し、これを謹んで二瓶先生に献呈させて戴く次第です。

二瓶先生は、昭和 44 年 3 月に明治大学商学部をご卒業された後、同大学博士課程を修了しておられます。亜細亜大学には昭和 54 年 4 月に助教授としてご着任されました。着任後は、昭和 60 年 4 月に教授へと昇格され、34 年の長きにわたり、マーケティング分野を中心に貢献してこられました。また、平成 14 年 4 月から 18 年 3 月まで経営学部長を、また同平成 14 年 4 月から 18 年 3 月まで亜細亜学園理事を務められました。長きにわたって亜細亜学園を支えてこられたことに、改めて感謝の意を表したく思います。有難うございました。

二瓶先生と私との出会いは、平成 13 年の分属以後ということになりますが、実際に先生の人となりを知ることができたのは、先生が経営学部長であった時期に、私が主任補佐として執行部に加えさせていただいた頃です。学園中のみなさんがご存知のように、その謙抑なお人柄はここに敢えて申すまでもないほどのものであり、しかも気さくな優しさも備えておられ、一昨年ご退職された久我先生が、「今度の学部長は上品ですばらしい」と語っておられたのを昨日のことのよう思い出します。また、この頃の私とは言えば、二瓶先生のその優しさにつけ込み、甘えていただけた万年青年だったように思い返されます。先生はまだ私が齢若であり、分属間もないこともあって、ほとんど仕事をさせることもなく、大変な事務作業もなるべく自分一人で処理なさっていたことを思い出します。「あの頃は本当に申し訳なかったです」と、今更ですが陳謝したく思います。

のちに先生のお人柄の、他の一面を知ったのは、あのホスピ学科をめぐる諸々のことがあった時期や学長選挙をめぐる話などもありますが、そうした話はいかにも野暮ったいのでここでは割愛します。それよりも、先生のお好きなジャズの話などをしたところでもありますが、しかしそれも止して、今回はあるビデオについての話をさせていただきたく思います。それは、小池重明という裏の世界で生きた将棋指しの話、「真剣師」と呼ばれる賭け将棋士の生涯を描いたテレビ番組のビデオ（驚きももの木 20 世紀）だったのですが、その男の無頼な人間像、アウトローな生き方に、二瓶先生がことのほか深い感銘と関心をお寄せになっていたことです。

正直、私は意外でした。もう一つお貸ししたのが同じテレビ番組の「襟裳岬秘話」という、こちらは情味の深い素晴らしい話ただけに、余計に先生がこちらではなく、能力はあっても人間失格的な、拙劣な人間の生き様に共鳴されるのが不思議でした。先生は、あの時代（バブル後

期)にそのような人間が現れる, ああいった人間がもう現れる時代ではなくなってしまった, という感想を述べられていたように思います。ひとつのことに打ち込んで, 周囲の人間関係や立場に囚われることなく思うがままに自分の人生を謳歌する, そうした人間の存在が, 21世紀のこの現代社会では極めて困難になっていることを嘆いておられましたが, それは私も同感です。見せかけばかりに気を遣う, 生きにくい時代になっていることに気が滅入ってしまうのは, 私とて同じです。先生が, 現在の学科長としての務めを果たしつつ, しかし選択定年の道を頑として選ばれたのも, もしかすると謙譲温厚なお人柄のその奥に, 自由の熱い息吹を求めようとする, 真の人間としての生き方を貫きたいというお心があったのかもしれませんが。いつかもう一度, この話をさせていただく機会があることを, 願ってやみません。

二瓶喜博先生, 長い間本当に有難うございました。これからの先生の益々のご活躍とご健勝を, 心より祈念申し上げます。

(平成24年10月吉日)